

## 播磨の古代寺院と造寺・知識集団 52

## 加古川左岸の新たな瓦出土遺跡

## 上村池遺跡と宗佐遺跡

寺岡 洋

## はじめに 西条廃寺創建瓦 →

2017年、播磨において知る限り2ヶ所の遺跡から新たに瓦が出土し、現地説明会が開催された。上村池遺跡と宗佐遺跡で、どちらも加古川左岸になり、古代では賀古（かこ）郡、現在は加古川市域になる。賀古郡は4里で構成される小規模な郡であるが、野口廃寺・石守廃寺・西条廃寺と3ヶ所の古代寺院が確認されており、さらに山陽道最大規模の賀古駅家（うまや）も存在した。4里に3ヶ所の古代寺院の存在は驚異的で、阪神間の神戸・芦屋・西宮・伊丹・尼崎市を束にしても4ヶ寺しかない。

播磨において瓦が出土する白鳳・奈良時代の遺跡は、古代寺院址・駅家址と播磨国府址、そして古代寺院に関連する施設であり、駅で自転車を借りて出かけた。

## 加古川総合文化センター

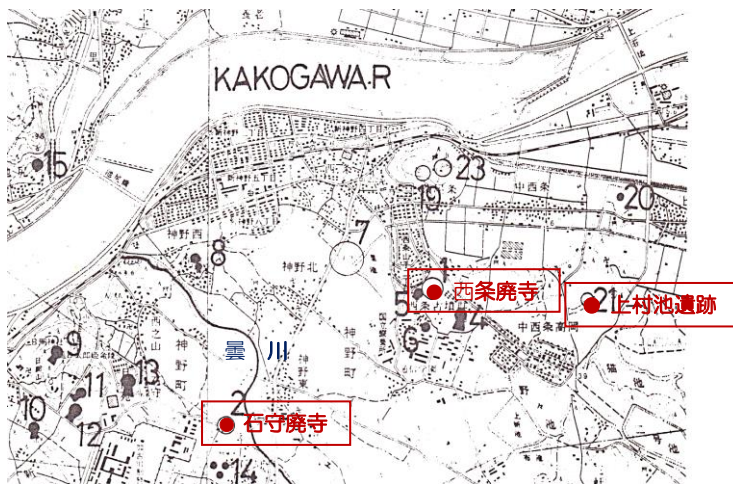
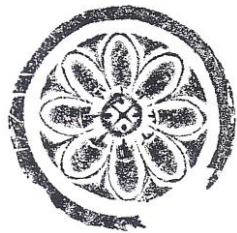
2017年3月4日（土）、幸い快晴。JR東加古川駅から出発。JRと並行する加古川バイパスをくぐると加古川総合文化センターがあり、博物館が併設される。加古川流域は渡来関連遺跡が多く、興味深い展示品が並び。

上村池遺跡は西条廃寺の東約700mの河岸段丘上に立地し（右上図）、現地説明会の案内文には「古代の瓦が出土」とある。展示されている西条廃寺出土品（軒瓦・風鐸・相輪・水煙など）、とくに軒丸瓦を眺める。

## 石守廃寺（加古川市神野町）

県道383号線を北上し、加古川の支流曇川（くもりがわ）を渡り神野郵便局前の信号を左折（西）し、山際まで行けば石守廃寺址になる。寺址は道路と小さな更地のみで古代寺院址の表示もないが、立地は確認できる。塔心礎は寺址の南にある寶塔寺境内に移されている。発掘調査されており、金堂のみが瓦積基壇。創建軒丸瓦は輻線文縁細弁16葉蓮華文（上図）。瓦積基壇と輻線文縁軒丸瓦は渡来系寺院の指標にされている。播磨での「輻線文」採用は石守廃寺のみ。

石守廃寺の立地は、加古川左岸の南北交通路と曇川沿いの東西交通路の伝路（でんろ）が交差する地点で、曇川に沿って東南に行けば、仮称呂美（おうみ）駅家・明石郡家（吉田南遺跡）に通じ、加古川を渡れば中西廃寺が立地する〔木本2013〕。西条廃寺は北東へ1.5km。



## 西条廃寺（県史跡 加古川市西条山手）

丘陵（約30m）上に立地しており、史跡公園に整備されている。台地上には近接して行者塚古墳・人塚古墳・尼塚古墳など西条古墳群（国史跡）が立地する。

発掘調査されており、金堂・塔が瓦積基壇、講堂も瓦積基壇と推定されている。伽藍配置は特異で、金堂が西面して金堂に向かい、河内の渡来系寺院の野中寺（やちゅうじ 羽曳野市）に類似する〔上田1987〕。

## 西条廃寺の軒丸瓦 一高句麗・新羅系一

創建時に使用された軒丸瓦（左上図）については特徴があり、報告書では、「高く突出した小さい中房を凸線にて十字に区切り、4個の蓮子を配する独特な瓦である。……出土軒丸瓦の中で最も多く、西条廃寺の主用瓦と考えられる」、「軒丸瓦の文様は、この二者ともに（左上図は軒丸瓦Ⅱ）高句麗系統の瓦の影響を受けている」〔加古川市1984〕とつとに指摘されている。

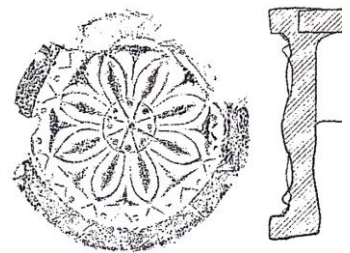
金誠龜氏は、「軒丸瓦の子房（中房）がいくつかの線刻で区画されていたり、子房の外側に陰刻圈（周溝・沈線）が形成されているもの」について、「7世紀前半頃に高句麗の刺激を受けて、新羅で新しく採用された装飾技法の一つとできる」と指摘され。類例として、慶州の皇龍寺址や雁鴨池東宮址、飛鳥寺禪院（下図）・西条廃寺を挙げられている〔金誠龜1995〕。飛鳥寺禪院からは5型式の軒丸瓦が出土しているが、「飛鳥寺ⅩⅢ型式」と呼ばれるものが西条廃寺のモチーフと類似する。

## 飛鳥寺禪院

## 飛鳥寺ⅩⅢ型式軒丸瓦

飛鳥寺禪院は南朝・梁系渡来人とされる船氏出自の道昭（道照 629～700）が唐から帰国後に飛鳥寺に建立した禪院で軒丸瓦は日本において主流をなすものとは異なり、唐・高句麗の影響を受けているのではないかとされる〔花谷1999〕。

高田貴太氏も飛鳥寺禪院ⅩⅢ型式の軒丸瓦について、「中房を凸線で区画し、その間に蓮子を飾る（特徴をもつもので）高句麗や新羅に特有のものであり、…出土例



は枚挙にいとまがない」〔高田2012〕と指摘される。

道昭は10数年諸国を周遊しており、播磨にも立ち寄ったのではないかと考えられる〔寺岡2015〕。

### 西条廃寺の創建集団（知識）について

西条廃寺の創建を主導した氏族集団は、その立地から西条古墳群を築造した氏族集団の後裔と思われるが、寺院造営に際しては、瓦積基壇や日本で極めて稀な文様をもつ軒丸瓦・伽藍配置を採用しており、渡来系と考えられる氏族集団が創建に大きく関わったようである。

### 上村池遺跡（加古川市八幡町上西条）

—奈良時代の大規模集落— 〔加古川市2017〕 ↓



西条廃寺の真東になる丘陵上（36～38m）に位置しており、周辺は畑と溜池。調査地を特定するのは難しい。上村池の周辺だが、溜池があちこちにあってどの池か分からない。昌岩寺というお寺のすぐ東一帯（上図）。

圃場整理による水路部分の発掘調査で、3調査区に分かれる。調査区1では、奈良時代（8世紀）を中心とする掘立柱建物が多く見つかり、桁行（けたゆき）6間×梁間（はりま 奥行）2間以上に復元される大型建物も含まれる。この建物の規模は一般の住居ではない。

大型建物址の北東170m辺りの調査区3でも奈良時代の掘立柱建物跡が多く確認された。大型の建物跡は見つからないが、遺構の埋土や表土中から瓦が出土した。

西条廃寺の軒丸瓦Ⅱ（前図）と同范（同じ木型）であろうとのことで、正式な報告を待ちたい。

### 上村池遺跡 — 望理里（まがりのさと）

今回の調査により、上村池遺跡は奈良時代を中心とする大きな集落であることが判明した。東西170m、南北100mの範囲に掘立柱建物が立ち並んでいた。大型建物も存在しており、里（郷）の中心集落である。

里の比定は難しいが、上村池遺跡の所在地一帯は加古川が大きく西に湾曲する地点であり、風土記に「此の川の曲り、甚（いと）美しきかも」とある望理里か。

附近は古代瓦が拾えたそうで、「遺跡分布地図」には「古堂（ふるどう）廃寺」として登録されている。廃寺の遺構は見つかっておらず、小さな道場のような草堂があったのであろうか？ いずれにせよ、上村池遺跡は西条廃寺創建と密接な関連があることが明らかである。

### 宗佐遺跡（加古川市八幡町宗佐）

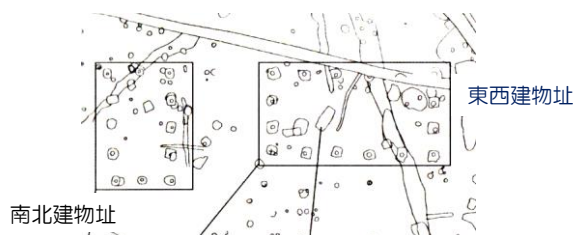
9月23日（土）、快晴。今回もJR東加古川駅から自転車。宗佐遺跡は上村池遺跡のおおよそ3km弱東にあり、加古川市の北東端、三木市（美婁郡）に隣接する。兵庫大学から稲美（いなみ）町役場までは東に向かい、ここから県道84号線（宗佐土山線）を北上する。

途中、厄除八幡宮（八幡町宗佐）に寄る。播磨には石棺仏や石棺があちこちに残るが、ここも鳥居の左右に家型石棺の蓋石が立てられている。境内にも一つ。

### 宗佐遺跡の特徴 — 官衙風建物配置・硯の出土

加古川左岸、標高18～19m、段丘に続くゆるい傾斜面に立地する。東播磨南北道の八幡北ランプ設置に伴う発掘調査。弥生時代後期～古墳時代初頭、奈良時代～平安時代初頭、平安時代後期～鎌倉時代の遺構・遺物が出土しており、断続的に集落が形成されていた。

宗佐遺跡では、東西方向の大型建物跡（3間×5間、約6×12m）と、その西にある南北方向の建物跡（2間×4間、約4.3×8.6m）が確認され（下図）、この2棟の建物の北辺が一直線に揃えられていた。



このような企画性をもつ建物配置は官衙（役所）の特徴で、藤原宮・平城宮を始めとして、国府・山陽道駅家・郡家（ぐけ）等でみられる〔播磨考古学研究集会 2005・2006〕。地方行政の末端を担った里（郷）でも中央に倣った建物配置を採用したと考えられ、望理里の公的施設であった可能性が高い。硯が3点出土しているのもそれを裏付けている。奈良時代の行政はすべて文書で行われるので、硯が必須であった。

で、肝心の瓦であるが、「少数ではありますが、この時代の瓦も出土」〔兵庫県2017〕とある。平瓦の破片のようで、軒瓦は出土していない。どこで、どのような建物に使用されたかは不明。かなり広範囲（約4000m<sup>2</sup>）に調査されているが、寺院の存在は確認されていない。

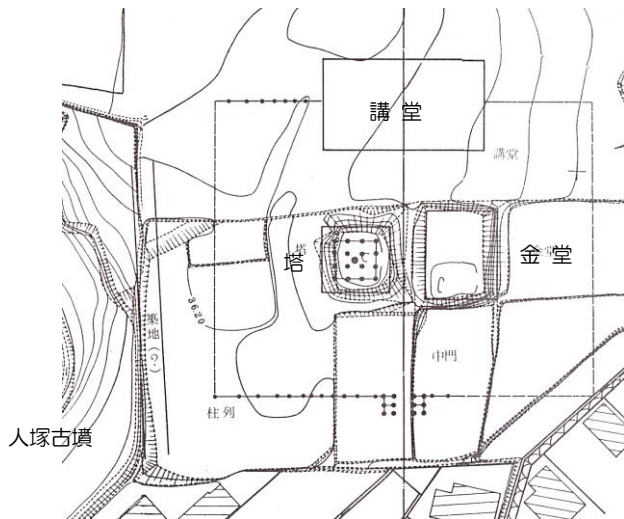
### 企画性をもつ大型建物の用途は？

どのような性格の建物なのか、不明としか言えないが、里長の居館であろうか？ 望理里長は西条廃寺の創建に関わったと考えられ、興味津々である。周辺に奈良時代～平安時代の遺跡が点在しており、宗佐遺跡周辺は重要な地域であったようである。

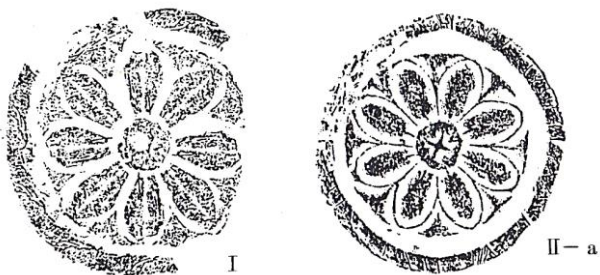
### 加古川段丘上の集落 — 望理里の東西に集落

賀古郡の北端、加古川左岸の段丘上で今まで知られていなかった奈良時代の集落が突然2ヶ所も確認された。加古川流域には段丘上に古代の集落がまだ眠っているのではないかと推測させる調査である。

■西条廃寺伽藍配置〔加古川市教育委員会1984〕



## ■西条廃寺出土 軒丸瓦Ⅰ・Ⅱ-a 〔同上〕より



■西条廃寺 塔瓦積基壇 〔加古川市1990〕より



■宗佐遺跡の位置 [兵庫県2017] より



## ■引用・参考文献

加古川市教育委員会 1984『加古川市遺跡分布地図』

加古川市教育委員会 1984『西条廃寺—発掘調査報告書—』

加古川総合文化センター1990『奈良・平安時代の出土遺物』

加古川市教育委員会 2017.3.4

『上村池遺跡発掘調査現地説明会』

兵庫県教育委員会 2017.9.23 \*現地説明会配布資料

『宗佐遺跡発掘調査の成果』

第6回播磨考古学研究集会 2005・2006

『資料集 古代集落からみた播磨—ムラと役所—』

『記録集 古代集落からみた播磨—ムラと役所—』

第6回播磨考古学研究集会実行委員会

\* \* \*

上田 睦 1987「野中寺」『藤井寺市及びその周辺の古代  
寺院（下）』藤井寺市教育委員会

井内 功・井内 潔 1990「西条廃寺」『東播磨古代瓦聚成』  
井内古文化研究室

金 誠 龜・(訳) 武末純一 1995

「古代日本の新羅系軒丸瓦について」

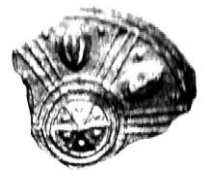
『青丘學術論集』第6集 韓國文化研究振興財団

花谷 浩 1999「飛鳥寺東南禅院とその創建瓦」

『瓦衣千年——森郁夫先生還曆記念——』

亀田修一 2010「日本の重弁蓮華文軒丸瓦と朝鮮半島の瓦」『古代瓦研究 V』奈良文化財研究所

飛鳥寺ⅩⅩ型式軒丸瓦について亀田氏は、「外区内縁の鋸歯文など異なる点はあるが、中房の表現はまさに平壤西城里（右図）そっくりであり、蓮弁も蓮蕾文が変化したものと考えて問題ないものである」と指摘される。



## ■慶州博物館 2000『新羅瓦磚』より



皇龍寺址（統一新羅）

雁鴨池（新羅）

高田貴太 2012「瓦からみた7世紀の日羅関係についての予察」

『国立歴史民俗博物館研究報告』第167集

木本雅康 2013「明石・加古・印南郡の古代伝路」

『兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書 II』

兵庫県教育委員会 第455冊

寺岡 洋 2015「飛鳥寺禅院の軒丸瓦と播磨」

『むくげ通信』 271 むくげの会